

令和4年10月28日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしく願いいたします。

◆市長

よろしく願いいたします。本日も台風15号の被災についてからお伝えをいたします。発災から1カ月が経過しました。一昨日と昨日にかけて、国の各省庁を訪ね、復旧に向けた緊急要望を行ってまいりました。まだ日常生活に戻れない市民の方々がいらっしゃいます。誰一人取り残さないというSDGs未来都市の理念の試金石になろうかと思えます。国や県とも連携をしながら、復旧のスピード感を上げていくということに全力を尽くしてまいりたいと思っています。また一方、今後の対策につなげるための検証作業も進めています。その結果については、改めて報告いたします。

本日は、この一カ月の状況を取りまとめますとともに、すでに認識し、今すぐすべきこと、対策を始める課題について、スライドを使って説明いたします。まず被害状況を振り返ると、まず浸水被害については、昨日27日までに市内全域で4,186件の床上浸水、1,477件の床下浸水を確認しました。現在も罹災証明の交付申請は続いており、速やかに被災者の支援につなげられるよう迅速に対応してまいります。次のスライドをお願いします。これが浸水被害の状況であります。赤い丸が家屋の床上浸水、緑の丸が床下浸水を表している。特に、巴川沿いに集中していることが分かります。巴川流域については、これまで県と連携し、遊水地や放水路の整備などを進めてまいりましたが、流域で記録的な大雨が短時間で降り続いたことで、流域の排水能力を上回ってしまったことが浸水被害につながりました。今後、地球温暖化にも対応した、さらなる治水対策を進めることが不可欠です。

さらに、市民の皆さんに大きな影響を与えてしまったのが、清水区の断水であります。断水戸数は約6万3千戸にのぼり、最終的に断水が解消するまでに、およそ2週間を要してしまいました。長い間、水のない生活を余儀なくされた市民の皆さんには大変申し訳なく思っております。今回の断水の最大の原因は、興津川承元寺の取水口が流木や土砂により埋まって、取水ができなかったことです。清水区は、この取水口からの水を多く活用していますので、再発防止は非常に重要な課題であると思えます。

これらを踏まえて、まず三つの課題に早急に取り組みたいと思えます。これが、

その三つの課題です。一つ目が、巴川流域の治水強化。これまで本市は、巴川流域全体で災害を軽減させる流域治水を計画的に進めてきましたが、一時間あたりの雨量で七夕豪雨を超える 107 ミリを記録するなど、短時間で想定を上回った今回の猛烈な大雨には耐えることができませんでした。昨今増えている線状降水帯がもたらす雨などにも対応できる設備が必要であると強く感じています。そこで、巴川の流域の治水を一層強化推進するため、短期間で即効性のある浸水対策にまず取り組みます。具体的には、大内新田地区の市有地への大規模調整池の設置、これまで学校や公園などに設置してきた雨水貯留施設の機能強化と新設、あるいは橋の高さを上げたり、橋脚を減らすための県との共同による道路橋の架け替え、これらに取り組み、費用、効果、工期などを急ぎ検討し、早急に事業に取りかかります。合わせて、県と連携し、巴川自体や、麻機遊水地などの河川整備を加速するよう、積極的に取り組んでまいります。

二つ目が、清水区の給水インフラの強化です。清水区の水道水の大半はご承知のとおり、興津川承元寺の取水口からの水を活用しているため、まずは、ただちにこの取水口の被災メカニズムの調査、検証を進めるとともに、緊急的な対策として、流木や土砂によって塞がれることがないように、例えば取水口の前に柵を設置するなど、取水口の強化に取り組んでまいります。次に、抜本的な対策としては、施設の機能強化や取水口の複線化、新たな水源の確保などを検討し、安定給水の体制強化に早期に取り組みます。さらに、市全域で安全、安心な水道水を持続的に供給できるよう、年度内に有識者による検討会を立ち上げ、その検討結果を次の更新計画に反映させることによって、市全体の水道施設の強靱化を進めてまいります。

ハード面ではこの二つでありますけども、ソフト面ではこの三つ目の課題、早急に取り組むべき大きな課題として認識しているのが、災害時の情報集約と発信体制の構築です。今回の災害対応で、われわれ経験が足りなかったということもありまして、情報の収集、整理、発信が適切に行えたとは言えず、市民の皆さんが知りたい情報を発信できなかったということは、大変責任を感じております。申し訳なく思っております。そこで私は、市民の皆さんが災害時に知りたい情報を今後一元的に簡単に知ることができる仕組みづくりとして、静岡型の災害時総合情報サイトを構築している途中だったんですけど、その前に今回の災害に遭ってしまいました。この従来三段階で計画をしていたものを、前倒しをして構築します。第一段階は、市民の皆さんが気象情報やライフラインの被災、復旧情報などの情報を簡単に手に入れていただけるよう、市公式ウェブサイトの緊急防災情報のページを整理し、拡充しました。第二段階は、市職員が収集した情報を職員間で管理、共有するとともに、市民の皆さんに分かりやすく提供させていただけるようにすることで、すでに職員用の災害情報共有システムが運用

を開始していますが、来年の7月には情報発信ツールである防災情報ポータルサイトの運用を開始します。そして、即時に総合的に情報を適切に伝えなければいけないという点では、静岡型災害時総合情報サイトの構築が不可欠です。このサイトでは、行政からの情報提供だけではなく、市民の皆さんが身の回りの被害状況の送り手となる双方向のシステム化を目指しています。現在、検討途中ではありますが、例えば市民の皆さんから被害の情報をLINEで投稿していただき、その情報を対策本部で一元的に集約、精査し、地図画面上で表示するとともに、水や物資の提供情報や、災害ごみの搬出方法など、市民の皆さんが知りたい必要な支援情報も地図画面に合わせて表示、公開することによって、災害の全体像が即時に、そして総合的に見える化できるようになり、適切な避難行動や救命救助、復旧復興、生活再建に役立てることができる情報を提供できます。この総合サイトについては、当初令和7年4月からの運用開始を予定していましたが、これを前倒しをし、2年後の令和6年10月から運用できるよう、現在、具体的なプラン作りに取りかかりました。もちろんデジタルに頼らない情報発信の強化も必要です。ご高齢の方など、まだまだパソコンやスマホの操作に慣れていない方もいらっしゃいます。そういう方々には同報無線や掲示板の機能の見直し、あるいは防災ラジオや、テレビや、あるいは電話等々の機能も使い、この情報発信をしていきたいと思っています。

最後のスライドです。今回被災された皆さんへの支援について申し上げます。各区に開設した被災者支援窓口では、災害見舞金や宅地内土砂の撤去、市独自の住宅支援策など、被災状況に合わせた、さまざまな支援メニューをご案内しております。これらの支援を受ける際に必要となる罹災証明については、申請を受け付けしたあと、現地調査、判定などを経て交付となりますが、現在、最短で5日間で発行できる体制を整えております。市民の皆さんが誰一人取り残すことなく、一刻も早く日常生活を取り戻すよう、引き続き全庁挙げて全力で取り組んでまいります。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただいまの発表につきまして、皆さまからのご質問をまずはお受けしたいと思っております。社名と名前をおっしゃってから、お願いをいたします。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

日経新聞です。取り組むべき課題として、巴川流域の治水強化や清水区の給水インフラの強化というところを挙げていただいたと思うんですけども、それに関するスケジュール感というか、規模感についてのお話しがなかったので、

決まっているのであれば教えていただきたいです。

◆市長

先ほど申し上げた大内新田の遊水機能の強化、すぐに着手していきたいと思っています。それから承元寺の取水口の機能強化、これもすぐに取り組んでいきたいと思えます。具体的には建設局、上下水道局から補足があればお願いします。

◆建設局次長

建設局次長の浅井でございます。大内新田につきましては、今年、来年から設計を始めまして、9年の完成を目指して整備を進めていきます。以上でございます。

◆日経新聞

すいません、令和9年で大丈夫ですよね。

◆建設局

はい。

◆上下水道局次長

上下水道局次長の榊原でございます。承元寺の取水口につきましては、まずはその取水口の修繕を早急に進めまして、次に抜本的な対策としまして、強固となるように水道施設を整備してまいります。また、その次には、有識者による検討会というものを今年度中に立ち上げまして、清水区のみならず、全地域、静岡市全体を見据えたかたちで、通常は、取水はできておりますので、特に災害時のバックアップをどのようにしていけばよろしいのかということも含めまして、その検討会の結果を受けて、またそれを施設計画に反映させていきたいと思っております。以上でございます。

◆日経新聞

すいません、施設整備のあとに有識者会議設置ということは、施設の整備は年内には終わるといふふうな認識でよろしいでしょうか。

◆上下水道局次長

はい。まずは応急的な施設整備はすぐさま図ってまいります。次いで抜本的な対策、整備、それから次には全地域を見据えた施設整備も必要な場合には、その検討結果を踏まえたかたちで計画に盛り込み、順次取り組んでまいりたいと

いうかたちで、段階的に整備していきたいと思っております。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。先にSBSさん、お願いいたします。

◆SBS

関連して、その応急的な施設整備というのが、先ほど市長が説明された、その土砂とか流木がかからないような設備だと思いますけれども、抜本的な対策とは、想定されるものとしては、複数の取水口を整備するなど、そういったニュアンスでしょうか。

◆市長

そうですね。実務的には補足をしてもらいますけれども、複数化するというのもありますし、この取水口の角度を変えるということもあります。今回は激流がまともに取水口に行ってしまったということが壊滅状態を生んだ。少しその取水口を、例えば90度変えて、そして取水がスムーズにできるようなやり方があります。あるいは取水口の上流部分に堰を置いて、その激流をせき止めるというやり方も、取水口が強靱化する一つの方法であるというふうに伺っております。さまざまな抜本的方法はあろうかと思っておりますので、それに着手して検討を進めてまいりたいと思っております。

◆SBS

ありがとうございます。もし分かればで結構ですけれども、その整備にかかるお金とか、どのぐらいかかるのかなというのを、もし計算があるのであれば教えてください。

◆市長

とにかく、それも財政局と協議をしなければいけませんけれども、とにかくお金がかかる、かからないということの前に、今はやらなきゃいけないという気持ちを私は市長として担当に伝えてあります。

◆上下水道局次長

上下水道局次長の榊原でございます。抜本的方法として、今、市長から発言が

ございました。角度を変えるだとかということも一つの案としてございます。まずはいろいろな検討会の検討結果を踏まえまして、いろいろ考えられることはございます。それにつきましては、費用もどのくらいかというのは、今まったくその算定できるものではございませんので、そういったものも含めまして合わせて検討課題と思っておりますので、そういったところは幅広い知見、皆様の、有識者のご意見も踏まえまして、検討してまいりたいと思っております。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

今の質問に関連で、もう一度確認しますが、取水口の機能強化については、短期的な、いつから着手するというふうな目途は特にはないんですか。

◆市長

応急処置は、今すぐ取りかかろうと。

◆読売新聞

それは修繕ですよ。

◆市長

そうです。

◆読売新聞

最初、市長がおっしゃった、前に柵をつけるようなのは、その前段階ってことじゃなくて、それも機能強化に。

◆市長

応急処置の一つですね。

◆読売新聞

応急処置の一つなんですか。

◆市長

はい。

◆読売新聞

それはすぐにやるということなんですか。

◆市長

そういうことでいいね。

◆読売新聞

すぐということですか。分かりました。

◆市長

柵をつけるというのは一つの方法だと思います。それは技術的な検討を今、お願いしてますのでね。

◆読売新聞

それは応急処置の一つでいいんですよね。抜本的な機能強化とは別にという…

◆市長

そうです。どうぞ。

◆上下水道局次長

まずは原状復帰、被災する前の状態に戻しながら、それから応急処置の中に入るかと思えますけれども、現状の柵をもっと、例えばでございます、柵を高くしたりだとか、抜本的な対策の中には取水口が今、川の上流側に向いておりますので、その角度を変えるとかということも一つの案ではございますが、それは関係者、関係機関ともよく協議しながら、どの柵が適切かということも踏まえながら取り組んでまいりたいと思っておりますが、現状では、まずは原状復帰と、考えられることは柵をもっと高くするだとか、あるいはその設備を背後地に設けるとか、そういうことは考えられると思います。

◆読売新聞

すいません、確認ですけど、先ほどおっしゃった有識者の検討会でも、そういう強化方法を検討するということでもいいんですか。

◆上下水道局次長

そういったことも、その検討の中には入ってくると思います。

◆読売新聞

わかりました。それからもう一点、過去にも何回か質問が出たと思うんですが、被害総額というのは、まだ算定はできてないという、どうなんですかね。

◆市長

全体はまだできてないかな。どうだろう。

◆市長

危機管理統括監、どうでしょう。

◆危機管理統括監

危機管理統括監の梶山でございます。全体の被害総額については、まだ把握できていないという状況でございます。一部確実なものというところも、まだ応急復旧の段階というところもありますので、これからさらに本復旧というかたちになっていきますと、費用がさらにかさんでいくかというふうには考えておりますが、現状で総額というところはまだ把握できていないという状況です。

◆読売新聞

ありがとうございました。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。今回、承元寺取水口だけでほとんどの清水区の取水を賄っていたということが大きな問題だったと思うんですけど、市長もさっき検討とはおっしゃっていましたが、新しい取水口を作る可能性というのは、今どれほど考えていらっしゃるのかな。

◆市長

それも含めて、年度内に立ち上げる有識者による検討会で議論してもらつつもりです。市全体の水道供給体制ということについて議論をしてもらう。その中で必要な措置をとっていくという考え方です。

◆司会

静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。巴川の治水の関係で、大内新田のこの大規模調整池というのは、いわゆる災害ごみの仮置き場に使われた市有地っていう認識でよろしいでしょうか。

◆市長

そうです。あそこの一部の部分ですね。

◆静岡新聞

それともう一点、スケジュール感なんですけれども、先ほど令和9年の完成というふうにお話しありましたけれども、これが調整池の完成が令和9年の完成っていう認識でいいでしたかね。もうちょっと詳しいスケジュール感あれば、教えてください。

◆建設局次長

建設局次長の浅井でございます。令和5年度に概略設計に入りまして、令和6年度に詳細設計、その後、工事に入っていきますので、完成が令和9年ということになります。以上でございます。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。発表案件につきましてのご質問、そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、幹事社質問に移りたいと思います。第一テレビさん、よろしくお願いいたします。

◆静岡第一テレビ

幹事社の静岡第一テレビです。幹事社質問についてお聞きします。まず静岡市長選についてなんですけれども、先日県の難波理事が次期市長選に向けて出馬の意向を固めたという報道を各社行っておりますけれども、それについて、まず市長自身の受け止めと、市長自身、次期市長選についての態度の表明はいつごろ行う予定でしょうか。

◆市長

まず今やるべきことをしっかりやるということです。この災害復旧のスピード感を上げるとか4次総をきちっと仕上げ、次の議会に上程するとか、そういうことに専心したいと思います。私の表明につきましては、しかるべきタイミングにお伝えしたいと思います。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。あと追加でなんですけれども、昨日商工会議所の酒井会頭が、田辺市長に対して立候補を取りやめるよう進言をしたというような旨の発言をされておりまして、それで市長からも具体的な返答はなかったんですけども重い発言もあった旨の発言を聞いております。まず、この酒井会頭からの立候補取りやめの要請について、どう受け止めていらっしゃるかということ、お聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

今日は公の定例記者会見ですので、そのことについて発言は控えたいと思います。ご理解ください。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。2番目の幹事社質問に移らせていただきます。来週あります大道芸ワールドカップについてなんですけれども、差別的な発言をめぐって、プロデューサーの解任と実行委員長の辞任がありまして、開催期間も2日間に縮小されたかたちとなりまして、経済効果を考えると大きな痛手だったと考えざるをえないのですが、大会のあり方や、今後同じようなことが起きないように、静岡市としてどのように対応していくのかというのが一つと、また3年振りに開催となった大会への期待を、改めて教えていただけますか。

◆市長

おっしゃるとおり、何はともあれ3年振りの開催を願っている市民の方々がたくさんいらっしゃるので、この難局を乗り越えて開催をするという決断にいたった実行委員会の皆さんのご尽力に対し、敬意を表し、お礼を申し上げたいと思います。ですから、私たちはそれを安心、安全なイベントの運営に心がけていただき、下支えにしっかり取り組みたいというふうに思っています。駿府城公園を拠点に、青葉公園や駿河区、清水区のサテライト会場の各地が賑わうよう、市民の皆さんはもちろんのこと、県外からお見えになる多くの皆さんを、市を挙げて歓迎したいと、そう思っています。

◆司会

それでは、今の幹事社質問に関連するご質問をまずはお受けします。NHKさん、お願いします。

◆NHK

NHKです。商工会議所酒井会頭のご発言について、公の会見なので控えたいと市長はおっしゃいましたけど、公の会見だからこそ、酒井さんも商工会議所会頭、静鉄会長の肩書をもって報道されることをご承知のうえで発言されてますので、そこはお答えいただきたいのですけれども、その市長の返答について、酒井さんは、「明確に覚えている大きく三つのことを言ったんですけれども、私の口から言うのは失礼にあたるので、非常に重い発言をされているけれども、それは市長の発言であるので私が代弁する話ではないと思う」と、昨日は説明することを控えられました。それだけ市長が今日お話しになることを酒井さん期待して、そのように対応されたわけですので、市長からそのときにどういう返答をしたのか、お聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

それは控えさせていただきます。

◆NHK

大きく三つのことをおっしゃったと具体的に酒井さん説明されてるんですけど、それはお示しいただけませんか。

◆市長

市長公室秘書課に退任のご挨拶に来るということで私は対応をしたものでありますので、市長の立場で今日は定例会見をさせていただきますので、ご理解をいただきたいと思えます。

◆NHK

執務時間中に市長のオフィスで交わされたやりとりですよ、個人的に飲み会でしゃべったとかいうレベルではなくて、それは明かせないんですか。

◆市長

何度も申し上げますが、定例記者会見で市長として、そのことについては申し上げることはできません。

◆NHK

できないというのは何か法律上、条例上の制約があるのでしょうか。

◆市長

市長としての会見ですので、退任の挨拶をいただきましたということだけ申し上げます。

◆NHK

酒井会頭も市長としての田辺さんに退任の挨拶を言う中で、市長としてのあり方について語られたんじゃないんですか。

◆市長

それは記者、許してください、ここでは申し上げません。

◆NHK

市長会見の場では説明できないとおっしゃいましたが、できないんじゃないくて、市長がそれを今、避けてるということですね。

◆市長

控えているということです。

◆NHK

酒井さん、そういったやり取りをしたうえで、我々の取材に対して積極的にお話しになった、おそらく意図をもってオープンにその話をされたんでしょうけども、そういった個人的なやり取りを明かされたことに対して、2年前もこんなやり取りしたことがありますけれども、そういったことをこういった場でオープンにするべきではないと何か抗議したいとか、そういったお気持ちありますか。

◆市長

それは酒井さんのご見識の中で発言されたことだと受け止めております。

◆NHK

例えば、3年前、前回はJ A清水が田辺さんを推薦したあたりから難波包囲網が強まってきて、市長ご自身も地元代議士と連携して難波さんに降りるようにプレッシャーをかける行動を取られました。翻って今回、先日もそのJ A清水の

組合員さんが、難波さんを招いた講演会を開いて百人以上集まるということがあったわけですが、こうした田辺包囲網のようなものが、どんどん形成されていく、3年前にご自分がなされたことが今度はご自分がされる側になっているのは、当事者としてどういったお気持ちでいらっしゃるのでしょうか。

◆市長

この席で、これ以上のことは申し上げられません。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。よろしくお願いいたします。昨日のその関連なんですけれども、静鉄の酒井会長が支援しないこと、というのも明言したんですけれども、これについての受け止めはいかがでしょうか。

◆市長

これも先ほど申し述べたとおりです。ご理解ください。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。同じ件なんですけれども、話の内容はともかく、静岡商工会議所の現職で会頭、まだ任期がちょっとある中で、その会頭として、その商工会議所の中でああいうような政治的な発言をされたことについては、いかがでしょうか。

◆市長

商工会議所の中でも、いろんな議論が起こっているんじゃないかなということを推測しています。

◆テレビ静岡

それについて、政治活動とも取れる発言をしたことについては、どうですか、その受け止めは。

◆市長

私の今の立場では申し上げることはありません。

◆テレビ静岡

わかりました。

◆司会

朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

ごめんなさい、ちょっと追加になるんですけども、昨日その酒井さんの話の中で、二分するような選挙はしたくないというような発言もあったんですけども、これについてはいかがでしょうか。

◆市長

先ほど申し上げたとおりです。

◆静岡朝日テレビ

ここも発言を控えるということですか。

◆市長

はい。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。幹事社質問関連、第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

幹事社なんですけど追加で。酒井さんの発言については今、市長お話し控えますという話だったと思うんですけど、市長、そもそも市長選についてですけども、これまで9月でしたかね、これまで何度かその定例会見で質問も上がっていたと思いますけども、意欲はあるということを重ねておっしゃってらっしゃいました。あれから数カ月経っていますけれど、ご自身の選挙について、次期市長選について意欲があるという前のお気持ちは今も変わりませんか。

◆市長

はい。変わっておりません。

◆静岡第一テレビ

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。ではSBSさん、お願いいたします。

◆SBS

すいません、戻ってしまって。酒井会頭は二分する選挙はよくないという経済界の声を代弁していましたが、酒井さんがどうこうというよりも、逆に考えると選択肢が増えるのもあんまり嫌がっているような感じにも受け取れます。一政治家として、二分されるような選挙というのは、そもそも、それほどないほうがいいのか、それとも市民にとってはどうなのか、そのあたり選挙のあり方としては、どう思ってますでしょうか。

◆市長

それは、私は当事者の一人ですので、市民の皆さんがお決めになることだろうと思います。

◆SBS

立候補などが表明される前にこういった動きがあるのは、価値観によっては良くないんじゃないかとか、でも今後のために必要なんじゃないかあると思うんですけど、田辺さんご自身、二分されるってことについての否定的なのか、賛同する部分あるのか、そのあたりはどうでしょうか。

◆市長

私は今やるべきことをやるということを市民の皆さんにご理解いただきたいというふうに願っております。確かにこの台風災害においても、私を含めて市行政、適切な行動取れたのかというところと反省するところがあります。だからこそ、この骨身に染みた未曾有の大災害、これを肝に銘じて、これから復旧のスピード感を上げていくと。ここに全力投球をしていきたい。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。内容が大道芸ワールドカップの話なんですけれども、開催は決まりましたけれども、一部のアーティストが、アーティストとか外部と開かれた意見交換の場というのを実行委員会に要望して、実行委員会側がなかなかそれに対応せずにアーティストの中には不信感が溜まっていて、署名活動も600筆以上集まっているという状況があると思うんですが、これについて開催はするにしろ、今後、まず市としての受け止めと言いますか、開催が決まった後でも、こういう不信感が溜まっているという状況について、どう思われますでしょうか。

◆市長

実行委員会の皆さんには、市民の皆さんの期待に応えられるような大会になるように頑張ってもらいたいな、取り組んでもらいたいな、そう願っています。

◆テレビ静岡

現状、公金もたくさん入っていますが、実行委員会の一連の対応というのは、市として納得できるものでしょうか。

◆市長

それも検証が必要だろうというふうに思います。まずは今年の決断してくれた大会を市行政としては下支えをしっかりとしていくと、そのあとでその作業は必要だろうというふうに思っています。

◆テレビ静岡

今おっしゃった、開催後に、それは市としてそういう検証の場を実行委員会とともに作る、ということを検討に入るとのことですか。

◆市長

実行委員会と議論をしていきたいと思っています。

◆テレビ静岡

わかりました。

◆司会

朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

この大道芸の関連でなんですけれども、市として共催している立場として、今後の関わり方と言いますか、実行委員会とのやっていき方、そのあたりってどう考えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

公金を支出している以上、そのところは関わっていかねばいけないというふうに思っています。

◆静岡朝日テレビ

これまでも過去に問題が発覚している中で、市民の方からは市の関与が足りないのではないか、というような厳しいご意見もあるんですけれども、そのあたりはどう捉えて、今後どう対応されていきますでしょうか。

◆市長

そのような声を受け止めて、今回の大会後、行政としてすべきことをしていきたいというふうに思っています。

◆司会

NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

同じく大道芸ワールドカップについて、今の静岡朝日テレビさんの質問の続きですけれども、そもそも事務局の方はそれほど手厚いものではないと思いますけれども、報酬はもらっているものの、ほかの方は今の実行委員会代理含めて無報酬であるという中で、なかなかこういったチェック体制が今回及ばなかった。それに対して非難が寄せられていて、それに耐え忍びながら一週間後の大会開催を進めているという中で、実行委員の方々のモチベーションにもかなり影響を与えている事態だと聞いております。とりあえず来週はやるんだけれども、そのあと本当にこの大会、静岡の大道芸文化続くのかという問題に次は議論が進むと思います。場合によっては、もうボランティアの実行委員会に頼らずに、市の直営で市職員が運営ちゃんとやるべきじゃないかという意見もあるわけですが、そのあたり市長どうお考えですか。

◆市長

30年近い歴史の中で、これは市民有志による大会なんだということが理念にありますので、私たちはなるべくそれを尊重してきました。しかし、そのようなことがあるのならば、この大会が終わった後、市としてどう考えるかということは、率直に実行委員会の皆さんと議論しなければならないというふうに思っています。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

そのほか、幹事社質問関連でいかがでしょうか。よろしいでしょうか。一つ、ここで事務局から訂正をさせていただきたいと思います。

◆水道施設課長

水道施設課長の稲葉です。先ほどの緊急対策をいつからするのかというご質問に対する回答のほうを、訂正をさせていただきます。これからすぐに、承元寺の取水口がどのようにして被災をしていったのかという調査と検証を行います。その中で流木がどのようにして絡まったとか、土砂がどのようにして入り込んだとかというような、その要因を調査しまして、それに対する対策を検討をして、早ければ令和5年度から、できるものから着手していきます。それから抜本的な対策については、施設の機能の強化、それから工程も合わせまして、これから検討を進めていきます。以上です。

◆司会

それでは、そのほかのご質問をお受けしたいと思います。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。前回の市長会見で知事との関係性について議論がありまして、同じ日に知事が、それなら携帯電話の番号を教えると言ったんですが、田辺市長は番号を教えてもらったのでしょうか。知事の携帯電話。

◆市長

教えていただきました。

◆読売新聞

そうですか。それは今後必要があればかけるおつもりということですね。

◆市長

活用したいと…

◆読売新聞

まだかけてないという…。

◆市長

一回かけましたが、通じませんでした。

◆読売新聞

わかりました。それは何か必要性があってかけたんじゃないなくて、試しにかけてみたという感じ。

◆市長

試しにね。いただきました、ありがとうございます、とお礼を申し上げたかったので。

◆読売新聞

わかりました。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

その件について前回の会見でのやりとりでその話出たわけですけども、報道というか、市民の中には、自衛隊派遣の要請が遅れた理由の言い訳として、田辺市長が知事の携帯を知らなかったんだという、とんでもない理屈を持ち出してきたというふうなかたちで結果的に伝わってる面もあるようですけれども、これについて市長おっしゃりたいことあれば伺いますので、どうぞ。

◆市長

それは訂正させてください。誤解です。このホットラインがつながってなくても、

発災初日から市と県は危機管理同士を中心として、この対応について自衛隊の派遣要請についても議論を深めておりました。一生懸命連携をしてくれたというふうに思っています。

◆NHK

ありがとうございます。話変わりますけど、サッカースタジアムについて、今週の検討会でENEOSの土地を新設の場合の候補地としたうえで、それが費用面など実現性が難しい場合は、現アイスタの改修という2案で来年度進めていくということになりましたけれども、ENEOSの土地の話は数年来ずっと持ち上がってるわけですがけれども、懸念されている費用の増大等々含めてどういった課題があると、ENEOSの土地での新設の実現可能性、どれぐらいあると思ってるか、お聞かせいただけますか。

◆市長

これは今、検討委員会で議論を進めておる最中ですので、私としてそのことについてはまだ、検討委員会の結果を見て判断をする、ということにしたいと思います。

◆NHK

結果を見てであれば、今年度どころか来年度までたぶん結果出ないと思うんですけども、市長はENEOSの土地にどういった課題があると認識されますか。

◆市長

私今回の災害について、本当にENEOSの社員の皆さんはご尽力をいただきました。スピード感を持って仮置き場を提供していただきましたし、そういう意味では、ENEOSの社員の皆さんと私たちとの今回、この難局において共同作業をしたという人間関係、信頼関係は強化されたというふうに肯定的に見ております。

◆NHK

すいません、今、話がまったく噛み合わなかったんですけど、ENEOSとの信頼関係でなくて、ENEOSという固有名詞抜きでいきましょうか、清水区袖師町の清水油槽所の跡地にサッカースタジアムを作ることにについて、どういった課題があると認識されていますか。

◆市長

それはいろいろな問題があろうかと思います。財政の枠組みをどうするのかを始めとして、いろいろな課題があろうかと思います。

◆NHK

例えば、土地としてどんな課題があるか、特に検討会でどんな話があがったかも報告は受けてらっしゃいませんか。

◆市長

もちろん。

◆NHK

どういったところが大きな課題だと認識されてますか。

◆市長

それは検討委員会の議事録を、ぜひご覧をいただきたいというふうに思います。

◆NHK

市長としてのお考えを伺いたいんですが。

◆市長

検討委員会の議論のとおりだろうと思います。

◆NHK

それと一番の疑問として、そもそもENEOSが土地を譲る、ないしは貸してくれるのかという点があるわけですが、結局、その後、市長はENEOSの今の社長とはなんらかのお話しされたんでしょうか。

◆市長

先ほど申し上げたとおり、本当に災害対応でお世話になりました。そのお礼にも伺っております。

◆NHK

災害対応の話は結構なんですが、スタジアムのことについて何か話題、話を交わしたという事実関係があるのかどうか、いかがでしょうか。

◆市長
しておりません。

◆NHK
わかりました。ありがとうございます。

◆司会
日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞
日経新聞です。関連なんですけれども、そもそもIAIスタジアムの改修、問題として挙がっているアクセス的な問題であったりとか、その他の問題というのはあると思うんですけれど、それを残されたということに対して、市長はどういうふうに考えていらっしゃるのかなど。

◆市長
これも検討委員の皆さんが議論に議論を尽くして、あのような2案になったということを尊重したいと思います。

◆日経新聞
そもそも論として、アクセスの問題とか、カバー率の問題とか、IAIスタジアムって外崖みたいになっていてという問題もあって、なってる中で、あれが残ったというのはアリバイ的じゃないかというふうな考え方もあるんですけども、それに関してはどう思いますか。

◆市長
これから市民の皆さんに広く意見を聞くという段階になっておりますので、その市民の意見の趨勢ということも見極めていきたいと思っています。

◆日経新聞
ありがとうございます。

◆司会
それでは目安の45分を超えましたので、本日の会見はここまでとさせていただきます。次回は11月10日の木曜日、午前11時からの予定となっております。本日は、ありがとうございました。